

◎ ペレット関連情報

■ (有) シモタニ (岐阜)、8年ぶりの自社新商品「EM II (イーエムツー)」で全国縦断・新ペレットストーブ発表会を開催。これまでの同社のラインアップは小売価格で40万円以上していたが、EM IIは30万円台のマーケットも意識して開発。同社ストーブの「エマーソン」より5万円低くメーカー希望小売価格を設定している。8月25日に北海道北見市で行ったのを皮切りに、9月2日は東京都青梅市で、その後は9月中に富山、京都、広島、福岡で新商品発表会を実施【OSR No.243号：2016/09/07】

■岐阜県高山市の「木の駅プロジェクト」、開始から3カ月で間伐材を集める「駅」は3カ所に増え、年度末までに7カ所設置される予定。間伐材1t当たり、市内の飲食店など加盟31店舗で利用可能な地域通貨「エネポ」6,000円分と交換する仕組み。年間250~300tの間伐材集積を目指す。現在、間伐材は全て高山市内の木質燃料(株)がペレットに加工。運搬は無料で原料も安く仕入れられるため、企業側のメリットもある。二年前に飛騨地域を襲った大雪で多くの木が倒れて停電したのを機に、薪やペレットを使うストーブの購入者が増えたという。今後は小中学校でも導入される予定【中日新聞：2016/09/11】

<http://www.chunichi.co.jp/article/gifu/20160911/CK2016091102000025.html>

■長野県駒ヶ根市、同市町二区に建設していた経塚保育園と子育て支援センターの竣工式を開催(9月14日)。同保育園は1974年に建設。老朽化や耐震性の問題による移転新築に併せて市は飯坂保育園にある子育て支援室と下平保育園の病後児保育室を集約し、さらに乳幼児家庭の交流の場としての機能を備えた新施設の設置も計画。自然エネルギーの活用や防災に配慮した施設とし、ペレットボイラの暖房や太陽光発電設備、蓄電池等を装備。総事業費は約7億2,400万円。設計は(有)アイ設計、工事監理は城取建築設計事務所、本体工事は窪田建設(株)、機械設備は(株)光洋設備、電気設備は新井電気工業(株)(いずれも長野)が請け負った。新施設はいずれも10月11日開園予定【Nagano Nippo Web：2016/09/15】

<http://www.nagano-np.co.jp/articles/8058>

■東欧モルドバのバシレ・ブマコフ駐日大使が、(株)渡会電機土木の田代工場(山形県鶴岡市)を視察。同社は、2013年度に日本の政府開発援助(ODA)で豊田通商(株)(愛知)、

二光エンジニアリング（株）（静岡）らと協力し、同国に木質ペレット製造工場や暖房ボイラを整備しており、今回はその尽力に対する表敬訪問。同大使は「エネルギーをロシアなど周辺国からの輸入に頼っていたが、捨てられた果樹の枝などを使って少しでも自給できるようになった」と感謝を述べた【毎日新聞：2016/09/22、OSR：2016/09/28】

<http://mainichi.jp/articles/20160922/ddl/k06/040/008000c>

■内モンゴル自治区満州里出入境検閲検疫局、中国が植物性バイオ燃料をロシアから初輸入したと発表。燃料の形状は木質ペレットで、原料は植物の茎や枝、木材製造で発生する端材等。初回輸入量は62t、額にして30万5,000ルーブル（約48万1,900円）相当。ロシアは木材資源が豊富で中国への最大の供給国。今年1～8月、満州里口岸（通関地）から輸入された板材は500万m<sup>3</sup>で、これに伴い発生した端材は約250万tに上るとみられる。これを木質ペレットとして加工すれば、真の廃棄物利用が可能となる。木質ペレットは中国のクリーンエネルギー産業の成長にとって新たな原動力になるとみられている【SankeiBiz：2016/09/26】

<http://www.sankeibiz.jp/macro/news/160926/mcb1609260500001-n1.htm>

■林野庁、平成27年の木質ペレットの生産動向を取りまとめ、公表。平成27年における木質ペレットの生産量は約12.0万t（前年比0.6万t減）、前年比増減率は△5.1%。熊本県や北海道等23県では生産量が計1.0万t増加したものの、沖縄県や岩手県等16県では生産量が計1.6万t減少（沖縄県は主要生産者が昨年7～12月の半年間新設建屋の工事のため原料受入れ制限をしていたこと、岩手県は葛巻林業（株）が破産し工場閉鎖したことが影響した模様）。全体では0.6万tの減少に。工場数は142で、前年同。工場は北海道と新潟に多く、全工場数の22.5%が同2県に所在。次に岐阜県、高知県が続く。輸入ペレットは約23万t（前年比14万t増）で、前年比プラス41.6%と大幅増加。その他用途別生産量、原料入手区分別生産量及び含水率、丸太・林地残材から生産した樹種別生産量についても取りまとめ、ウェブに掲載【同庁：2016/09/27、OSR No.246：2016/09/28、環境ビジネスオンライン：2016/09/28、J-FIC ニュース：2016/10/06】

[http://www.rinya.maff.go.jp/j/press/riyou/160927\\_1.html](http://www.rinya.maff.go.jp/j/press/riyou/160927_1.html)

<https://www.kankyo-business.jp/news/013428.php>

<http://www.j-fic.com/news>

■イーレックス（株）（東京）、福岡県豊前市におけるバイオマス発電事業に関する準備会社の設立を決議。同事業は豊前市の九州高圧コンクリート工業（株）（福岡）敷地内に、出力約7.5万kWの木質ペレットおよびPKSを主燃料とするバイオマス発電所（4発電所で40万kW超）を建設・運用し、燃料は全量同社が供給するというもの。同社は九電みらいエナジー（株）（福岡）、豊前開発環境エネルギー（株）（同）、九州高圧との間で本事業の

検討に関する合意書を締結済み。発電所建設は 2017 年に着手、2019 年度完成予定【同社：2016/09/29】

<http://v4.eir-parts.net/v4Contents/View.aspx?cat=tdnet&sid=1403387>

■林野庁中部森林管理局が「木質バイオマスエネルギーの利用拡大に向けたボランティア活動の実施について」プレスリリース。南信森林管理署と多摩市が国有林をフィールドとして体験林業等を行う目的で、平成 17 年度に「遊々の森：多摩市民の森・フレンドツリー」の協定を締結。多摩市内の小学 6 年生やボランティア団体等が、毎年 5 月頃から継続的に体験林業（間伐作業）を行っており、10 月 16 日にその林内の間伐材を地元関係者等がバイオマスエネルギー（ペレット）として活用するため、林道まで運び出す予定【中部森林管理局：2016/10/06】

<http://www.rinya.maff.go.jp/chubu/press/kouhou/161006.html>

■総務省が創設、推進する「ふるさと納税」、「お礼の品」や「使い道」に木質ペレット。ふるさと納税として所定の金額以上寄付した人に対し、山形県東根市では（株）山本製作所（山形）の「ほのか」、山形県最上町と長野県木島平村では（株）さいかい産業（新潟）の SS シリーズ、岩手県花巻町ではサンポット（株）（岩手）のペレットストーブ（FFP-7202TS）をお礼の品の一つとして紹介。木質ペレット燃料では、高知県宿毛市が（株）相愛（高知）の「木質エコペレット」、滋賀県多賀町が大滝山林組合（滋賀）の「高取ペレット」を紹介。それ以外に、森林整備やペレットストーブの購入補助、ペレットボイラの導入等を寄付金の使い道の一つに挙げている自治体もあり、利用者が選択できるようになっている【ふるさと納税サイト：2016 年】

<http://www.furusato-tax.jp/search.html?q=%E3%83%9A%E3%83%AC%E3%83%83%E3%83%88%E3%82%B9%E3%83%88%E3%83%BC%E3%83%96>

■木質ペレット販売業の横浜ペレット（神奈川）、ペレットストーブ用「ぬく森ペレット」の定期配送サービスを 2016 年 10 月から開始。ペレットは同社協力企業の一つ、南ひだウッド協同組合（岐阜）が製造するホワイトペレット。定期配送は初回の申込、入金確認後毎月決まった納品日に決まった数量のペレットを届けるサービスで、同社サイトより申込み。680 円/袋(送料込)、10 袋から注文可【同社：2016 年】

<http://nihonto-trade.com/regular-delivery/>

※ OSR・・・オンサイト・レポートの略